

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：34534

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2022

課題番号：17K12329

研究課題名（和文）育児と介護を同時に行う（ダブルケア）中高年の実態と支援プログラムの作成

研究課題名（英文）Research of middle-aged and elderly people who are raising children and nursing care at the same time (double care) and creation of support programs

研究代表者

菅野 夏子 (Sugano, Natsuko)

姫路大学・看護学部・教授

研究者番号：90293290

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、育児と介護を同時に実施している中高年の健康問題を明らかにすることである。また、負担軽減のための介入方法を明らかにすることである。研究の結果、対象者は不定愁訴が多く、育児時間が少ないことに不満を持っていた。また、配偶者の協力が得られにくく、仕事を持つ人はストレスを感じていた。負担軽減のための介入については、現状のサービスでの対応は可能であるが、早期に対応する専門職の関わりが必要であることが明らかとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、日本における「ダブルケア」実施者に面接調査を実施し、負担感や健康状態を調査したことである。先行研究では、量的研究がほとんどであり、本研究では、実際に育児や介護を経験している人からの調査内容を分析した。また、「ダブルケア」の定義が、日本でのみ使用されている言葉であり、我が国の「ダブルケア」調査の定義が、未就学児を育児している者に限定されていた。本研究では、国外で多く発表されている「sandwich generation」の調査から、育児の対象を「18歳以下の子供の子育て」とし、調査を実施した。

研究成果の概要（英文）：This study aimed to identify the subjective symptoms for the middle-aged people who are carrying out childcare and nursing care at the same time. In addition, we aimed the intervention method for burden reduction. As a result of this research, the participants had many indefinite complaints. They were dissatisfied with the lack of child-rearing time. In addition, it was difficult to share the cooperation of spouses, and they felt stressed for works. As for the intervention to reduce the burden, it is possible to respond with the existing service, but it will be necessary to supply the involvement of professionals to talk about home care immediately.

研究分野：地域看護学

キーワード：ダブルケア sandwich generation 女性 中高年

1. 研究開始当初の背景

(1) 研究の学術的背景

我が国では、2000年に介護保険制度がスタートし、介護サービスの充実とすべての国民が介護保険サービスの利用が可能になるなど、介護がより充実したものになってきた。それまでの家族介護主流の時代から、施設介護の充実、在宅看護・在宅介護が充実し、患者家族もサービスが選択できるようになるなど、患者家族がどのような介護を受けたいのかといったものが、すべての国民が選択できるようになった。

しかしながら、家族が担う介護は一向に軽減されておらず、介護による離職者は年間100万人にもなり、離職による生活困窮者も聞かれる。また、2016年の内閣府の報告¹⁾では、育児と介護を同時進行で実施している(ダブルケア)者が、我が国では約25万3千人にもなり、今後女性の晩婚化、女性の社会進出が進むことが見込まれていることから、今後この人数は増加することが見込まれる。

しかしながら、この育児と介護の同時進行である(ダブルケア)者の研究は、海外でも2000年以降に研究され、我が国においても特に2010年以降に研究が進められている現状にある。そのため、実態調査が主となっており、特に日本の研究は、スタートしたばかりといえる。

アメリカの調査機関であるPew Research centerの2013年の報告書²⁾においても、2010年では親と同居する25~34歳の割合が21.6%と1980年以降増加しており、壮年期の家庭を持つ者の経済的負担が大きいこと、また40~50歳の47%が65歳以上の親を持ち、18歳以下の子育てを行っていること、そのうち15%は親と子育てに経済的な援助を行っていることが報告されている。しかし、我が国でのこれらの年齢等の詳細は明らかになっていない。

また、この育児と介護の同時進行である(ダブルケア)の研究は、海外と我が国の研究とは定義が異なる部分がある。特に、この「ダブルケア」の名称はわが国のみ使用しており、海外では「sandwich generation」の名称での研究が主流である。また、我が国の「ダブルケア」の定義では、「育児」を未就学児のケアとしている¹⁾が、海外の研究では18歳以下や21歳以下と対象年齢が異なること、「介護」が我が国の認知症のケアや一般的な身体的重症度が高い高齢者のケアとしているが、海外の研究では家事援助(庭仕事、住宅修繕、掃除、買い物や病院の送り迎え等)も含まれている²⁾。

【引用文献】

- 1) 内閣府.平成 27 年度育児と介護のダブルケアの実態に関する調査報告書.
http://www.gender.go.jp/research/kenkyu/pdf/ikuji_1_mokuji.pdf (2016年11月1日アクセス可能)
- 2) Pew Research Center Social & Demographic Trends. The Sandwich Generation rising Financial Burdens for Middle-Aged Americans (January 30, 2013).
- 3) file:///C:/Users/natsuko/Downloads/Sandwich_Generation_Report_FINAL_1-29.pdf

(2016年11月1日アクセス可能)

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、子育てと介護を同時に実施している(ダブルケア)中高年者の健康問題並びにケア負担状況を、質的研究方法を用いて明らかにする。子育てと介護を同時に実施している(ダブルケア)中高年者のニーズを質的に明らかにし、具体的な負担感軽減のためのサービスを検討する。

3. 研究の方法

(1) 先行研究より、対象選定、研究枠組みの再検討を文献研究から実施する。

【研究デザイン】文献研究

【対象】2014年以降の文献検索を、「ダブルケア」「sandwich generation」「women」のキーワードで実施する。

【分析方法】対象者、調査方法、結果について分類し整理する。

(2) 育児と介護を同時進行(ダブルケア)で実践している者を選定し、面接による聞き取り調査により、育児・介護の現状 実践者および家族の健康状態 実践者が求めるニーズ を明らかにする。

【研究デザイン】質的研究

【対象】地域包括支援センター、管轄保健所、訪問看護ステーション等に依頼し、育児と介護を同時進行(ダブルケア)実践者を選定してもらい、研究の同意を得られたものを対象とする。

【調査内容】基本属性(性別、年齢、家族構成、婚姻状況、仕事の有無、勤務状況、役職の有無)育児状況(子供の年齢、人数、子育てにかかる時間とおおよその金額、育児の具体的な内容)、介護状況(介護されている人との関係、介護を受けている人の年齢、性別、介護にかかる時間とおおよその金額、介護の具体的な内容)

【分析方法】質的帰納的分析

(3) (2)の聞き取り調査の結果から明らかとなったニーズに基づく、負担感軽減のためのサービスを考案する。

【研究デザイン】質的研究

【対象】地域包括支援センター、管轄保健所、小中学校、幼稚園・認定子供園職員、訪問看護ステーション等に勤務する職員約10人程度

【調査方法】面接による聞き取り調査またはフォーカスグループインタビューによる調査

【調査内容】ダブルケア実施者に必要なサービスの有無、実践するにあたっての問題点

【分析方法】質的帰納的分析

4. 研究成果

(1) 近年(2014年以降)の国内外の育児と介護を同時に行う「ダブルケア」ならびに「sandwich generation」の研究に関する研究の動向について文献検討を行った。2014年から2019年までの文献のうち、本研究の趣旨に該当する文献は9件であり、「ダブルケア」の研究は2件で国内の研究のみであった。7件はすべて国外の文献であり、「sandwich generation」に関する研究であった。「ダブルケア」の研究対象は、育児対象を18歳未満ないし未就学児を育児しているものとしていたが、国外の研究では、育児対象には成人の子も含んでいた。また、国内の研究では実態調査のみであったが、国外の研究では、「sandwich generation」を対象とした介入研究が報告されていた。

(2) 育児と介護を同時進行(ダブルケア)で実践している者を選定し、聞き取り調査を実施、質的帰納的研究手法を用いて、育児・介護の状況、健康状態やニーズを明らかにした。18歳以下の同居する児をもつ育児と介護を実施する30歳から57歳までの女性12名にインタビューならびに紙面でのアンケートを実施した。育児状況は、未就学児を育児するものはいなかったが、小学生の児を持つもの3名、中学生の児を持つもの2名、高校生の児を持つもの4名、大学生の児を持つもの5名であった。また、2名は知的障害児の育児を行っていた。介護実施状況は、介護認定を受けているものが6名であり、「要支援2」が4名、「要介護2」が1名、「要介護5」が1名であった。

具体的な介護内容は、「話し相手」「デイサービスや病院の送迎」「入浴介助」「食事の準備」「家事全般」といった内容であった。ダブルケア実施者の健康状態は、「熟睡していない、睡眠時間が短い」「肩こりがひどい」「腕が痛い」「高血圧症」「偏頭痛」といった不定愁訴を持つものが10名であった。自覚症状以外にも、「夫が無関心である」「夫が協力してくれない」「こちらが良かれと思って実施したことが、親の機嫌を損ねてしまう」「親族の協力が得られない」「仕事の途中で、親の体調不良から呼び出しがあり、仕事場に迷惑をかける」「介護の相談をする人がいない」「親の症状がどんどん悪くなるのが、わかる時」といった時にも、疲労感や不安感を感じている状況であった。特に、認知症や難聴といったコミュニケーションに障害をきたす状況の介護には、「何を思っているのかわからないので、希望がかなえられているのか不安」「意思疎通ができず、イライラする」といった意見が聞かれ、負担感が大きいことが考えられた。育児に関しては、「育児が24時間であるため、時間が拘束され、自分のしたいことができない」「子どもが学校に行きたくないと言出した時に困った」「子どもの反抗期」「もっと子供に関わってあげたいが、時間がない」といった時には負担感を感じていた。対象者全員が、「育児を実施している時が一番うれしい。特に、自分が作った料理をおいしそうに食べている時が幸福感を感じる」という意見が聞かれた。全員が、同年代や友人との交流があり、「年に1回集まって話をするだけでもうれしい。息抜きになる」といった意見や、「自分の趣味をしている時が一番楽しい」といった意見が聞かれた。

育児や介護が直接の原因で、退職や仕事を減らしたということはないが、フルタイム勤務者や役職をもつ対象者は、仕事量の多さに負担感を感じていた。勤務に加え、学校のPTA役員や地域の役員の仕事が加わったときの疲労が強いという訴えが聞かれた。

必要となるサービス等にニーズについては、緊急度の高いサービスを希望する人はいなかった。育児に関しては、障害を持つ児の子育てをしている人からは、「同じような疾患を持つ人との交流や相談場所」の希望や、要介護状態の親を介護する人からは「介護の相談ができる場が欲しい」といった要望が聞かれた。

(3)聞き取り調査の結果から明らかとなったニーズに基づく、負担感軽減のためのサービスを考案する。

(2)の研究結果から、現在育児と介護を同時に行うダブルケア実施者のニーズは、現状のフォーマルなサービスで実施可能であった。そこで、実際に育児や介護のサービス提供者側が、日々の業務から必要と感じるサービス内容を明らかにする目的で、聞き取り調査を実施した。

対象者は、地域包括支援センター職員2名(主任ケアマネージャー1名、保健師1名)、行政の児童福祉課職員1名、訪問看護師1名、ケアマネージャー1名、教育委員会児童幼児課職員1名である。サービスの必要性については、「現状のサービスの利用で十分である」とすべての対象者が回答したが、「より頻回な介入が必要である」といった意見が聞かれた。また、「現状のサービス内容で、早期に介入できるようチームを作った介入が必要である」「24時間体制の相談が受けられる体制が必要である」といった意見があった。行政職員からは、「子育てしながら、仕事を継続できるようなサービスが増えているが、育休等で職員が不在になった分の補充となる職員がおらず、他の職員の負担が増している」といった意見が聞かれ、育児休業等のフォーマルなサービスがあるが、それ以外の子育てや日々の家事援助等についての休暇制度等がないため、育児や介護をしながらも、欠勤している職員分の負担を背負って仕事をしている現状にあることが明らかとなった。

(1)(2)(3)の結果から、

- ・育児や介護を同時に実施しているダブルケア実施者は、育児に対する負担感よりは、介護に対する負担感が大きく、育児に対しては喜びを感じていた。

- ・育児や介護を同時に実施しているダブルケア実施者は、不眠や肩こり、高血圧症、偏頭痛などの不定愁訴を訴えていた。

- ・ダブルケア実施者は、特別なサービスの要望は聞かれず、育児や介護それぞれに対して、相談の場の必要性を訴える意見が聞かれた。

- ・ダブルケア実施者に対して、関わるサービス提供者側からのサービス提供に対する必要性は、対象者の少なさからも、緊急性の訴えは聞かれなかった。現状のサービスでの対応に加え、頻回に相談に応じる、早期に専門職が関わる必要性が示唆された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 菅野夏子、藤田敦子、鷺野貴子	4. 巻 3
2. 論文標題 育児と介護を同時に行う「ダブルケア」ならびに「Sandwich generation」の研究に関する文献的考察	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 姫路大学大学院看護学研究科論究	6. 最初と最後の頁 93-100
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	藤田 敦子 (Fujita Atsuko) (30512660)	姫路大学・看護学部・講師 (34534)	
研究分担者	鷺野 貴子 (Sagino Takako) (20759336)	姫路大学・看護学部・助教 (34534)	
研究分担者	永井 たつ代 (Nagai Tatsuyo) (90884510)	姫路大学・看護学部・助手 (34534)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------